

2011 YAMAHA S-1 GRANDPRIX FINAL

10/9(SUN) in 北総マリン利根川ゲレンデ



取材協力:マリンショップアルファ 岡崎店 TEL0564-23-5558/愛知県岡崎市堂前町1丁目6-21、御津店 TEL0533-75-3130/愛知県豊川市御津町大字大草 字新田 9-1



【SKI Class】
優勝:土子義信選手 2位:松橋洋史選手
3位:関泰光選手



【RUNABOUT1 Class】
優勝:中村俊雄選手 2位:鈴木克昌選手
3位:東海林功一選手



【RUNABOUT2 Class】
優勝:小倉光人選手 2位:辰見京平選手
3位:高市貴選手



【FX Class】
優勝:瀬崎明夫選手 2位:砂川将吾選手
3位:小島洋典選手



【VX Class】
優勝:武田克巳選手 2位:佐野信一選手
3位:川崎哲生選手



権威あるS-1大会のトロフィー。



去る10月9日(日)、千葉県印旛郡の北総マリン利根川ゲレンデにて、「2011 YAMAHA S-1 SLALOM GRANDPRIX全国選手権大会」が行われた。今年で15年目の節目を迎えたこの大会は、ご存知のとおりヤマハが主催する、スラロームのタイムを競うレースだ。一見すると簡単なようにも思えるが、単純ながら奥深いレースに多くのユーザーが熱中し、15年という長きに渡って愛され続けてきたイベントである。今年も15周年記念大会ということもあり、例年とは異なる点がいくつかあった。まずは今年度の大会より、競技クラスを刷新。SKIクラス(SJ700、700SJ、650SJ、700FX)、RUNABOUT 1クラス(VXR、VXS)、RUNABOUT 2クラス(FZR、FZS、環境対応が施されたGP1300R)、VXクラス(VX110、VX

)、そしてFXクラス(FX160、FX140、FX High Output、FX SHO)の5クラスで競われることとなった。さらに15周年記念特別ルールとして、各地方大会の上位5名に加え、S-1開催店推薦枠として1クラス1名、最大5名までが特別枠で出場。これにより、総勢61名がエントリーし、例年以上の盛り上がりを見せていた。まずはSKIクラスの結果からお伝えするが、このクラスは昨年、スポーツクラスで5連覇を達成していた関選手が、初戴冠を成し遂げ、2連覇が期待されたが、見事に阻止したのが土子選手。19.82の好タイムで、2006年以來のチャンピオンに輝いた。2位には上位の常連、松橋選手、3位に関選手という結果となった。2010年にニューモデルとして登場した、VXR、VXSが対象のRUNABOUT 1クラス。今年からS-1参戦とな

ったこのクラスでは、鈴木選手と中村選手が20.88とまったくの同タイムで並んだ。これは15年の歴史の中でもはじめての出来事。結果は2回走行したタイムの差が小さい方の勝利となり、1回目が20.88、2回目が20.94とまとめた中村選手が栄冠を手にした。今大会最多の18名で競われたRUNABOUT 2クラスでは、FZRを駆って同クラス中唯一20秒を切り、小倉選手が勝利。2009年から2年連続2位となっていただけに、喜びもひとしおだろう。一丸となってお父さんを応援していた家族の声援も、優勝への原動力となったに違いない。20.70、20.80、20.99。FXクラスのトップ3のタイムがこの3つだが、コンマ1秒を削るS-1のすべてがここに集約されているといっても過言ではないだろう。誰がトップに立ってもおかしくない

熾烈な争いを制したのは、昨年は同クラスで3位表彰だった瀬崎選手。見事に雪辱を果たし、悲願の頂点に輝いた。最後にVXクラスだが、このクラスはチーム「SPLASH」が表彰台を独占。武田選手(22.92)、佐野選手(23.07)、川崎選手(23.74)の3名が、VXクラスを席巻した。根強いファンに支えられ、15年というひとつの節目を迎えたS-1グランプリ。仲間や家族と支え合いながら、鍛錬し、競い、そして数々の絆がこれまでに生まれてきただろう。この絆こそが、S-1の重要なテーマなのかもしれない。「S-1で繋がる、仲間たちの輪」。今後10年、20年とこの大会が続いていき、その輪が二重、三重に大きくなっていくことを切に願う。

special thanks : photo/text EDGE inc.